

第2回 玄海町 対話を行う場

日時：2025年7月29日（火）18：00～20：15

場所：玄海町役場4階 大会議室

【目的】

- ・ 地層処分事業や文献調査等とは何かを、多くの玄海町の皆さまに知っていただく
 - ・ 文献調査を進めるうえで、皆さまのご意見をお聴きする
-

【全体の流れ】

時間	内容
18:00	はじめに：趣旨説明及び挨拶
18:10	参加者紹介
18:15	文献調査についての説明（全体：40分）
18:55	グループ討議（グループ：35分） ・ 自己紹介、説明への意見、質問を出す
19:30	発表と質疑応答（全体：45分） ・ グループの意見発表と質疑応答
20:15	終わりの挨拶

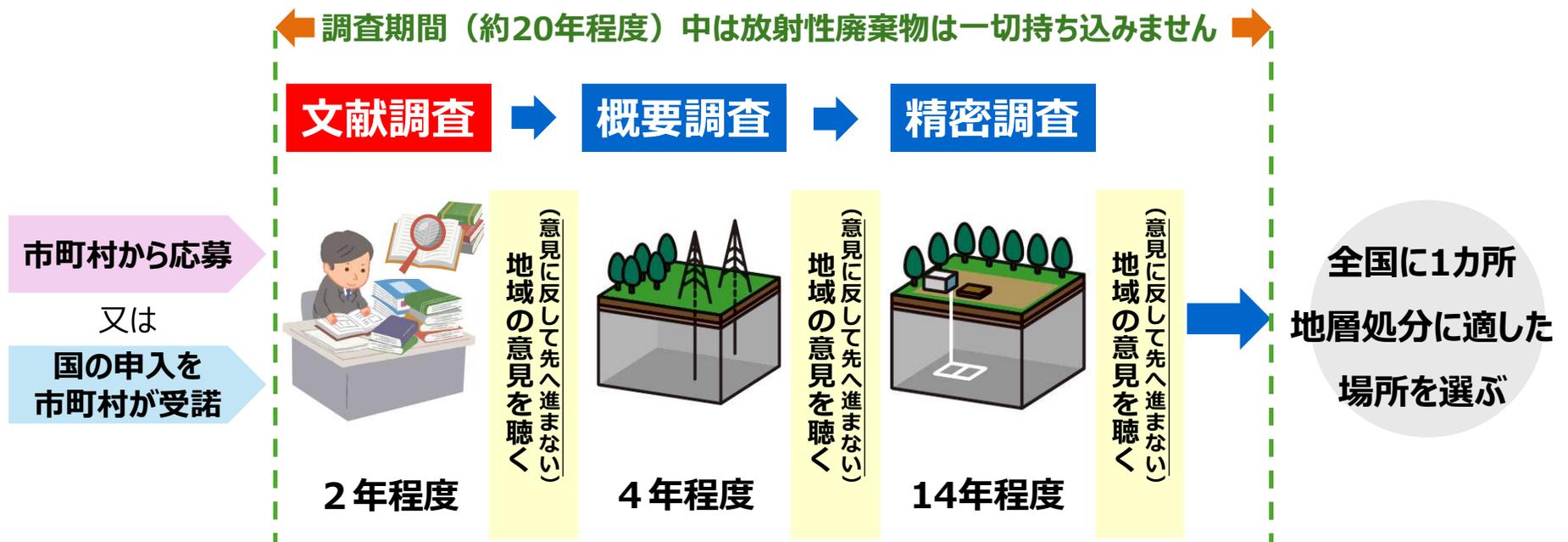
文献調査とは

2025年7月29日

原子力発電環境整備機構 ニューモ (NUMO)

文献調査とは：どうやって調査を進めるのか

- 段階的な調査を行い、最終的に全国に1カ所、処分場に適した場所を選びます。調査期間中は、放射性廃棄物は一切持ち込みません。
- 次の概要調査に進む際には、知事及び市町村長のご意見をお聴きし、これを十分に尊重することとしています。



文献調査とは：どうやって調べて、確認するのか

- 国がとりまとめた「文献調査段階の評価の考え方」に基づいて、集めた文献・データを読み解き、評価を行います。

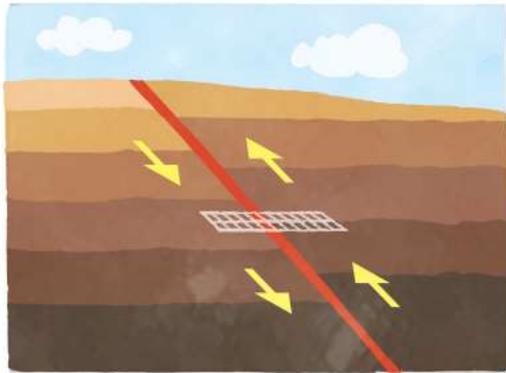
NUMO



文献調査とは：何を評価するのか

- 文献調査では、避ける場所の6つの「項目」に、それ以外の2つの「観点」からの検討を加えて評価し、概要調査地区の候補を選定します。

1. 地震・活断層



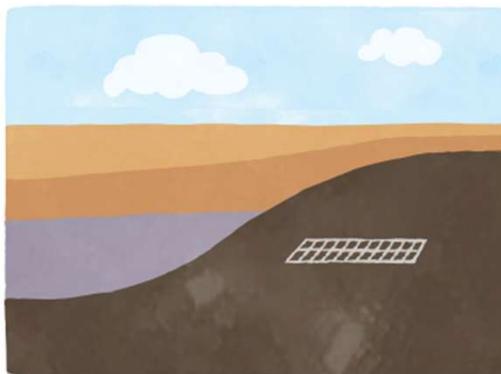
2. 噴火



3. 隆起・侵食

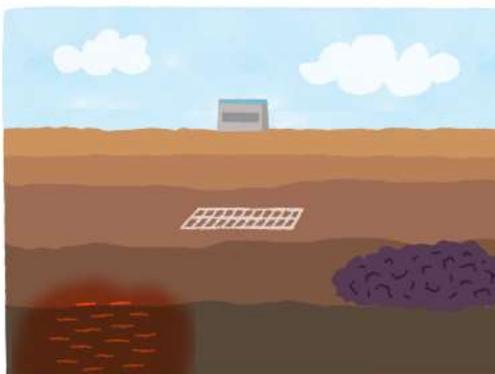


4. 第四紀の未固結堆積物



5. 鉱物資源

6. 地熱資源



7. 技術的観点



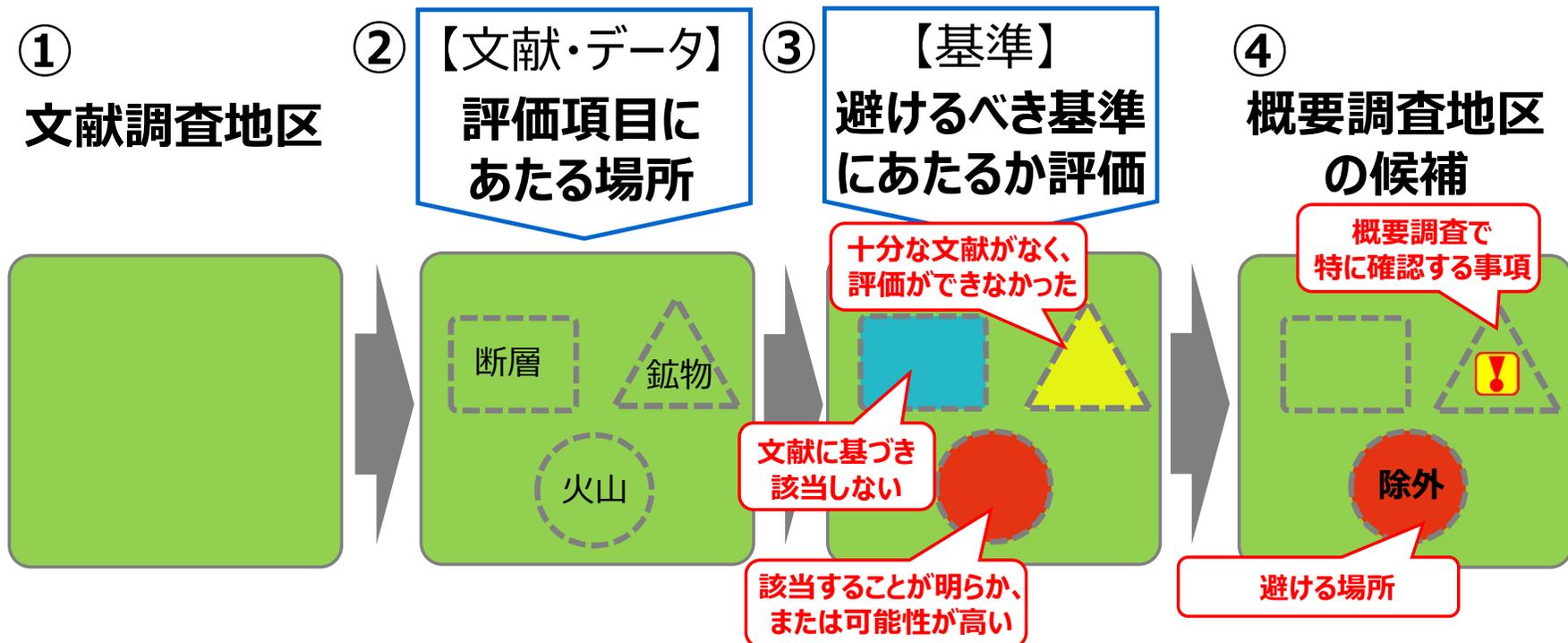
8. 経済社会的観点



文献調査とは：概要調査地区の候補を選ぶ

- 文献・データから、「避けるべき基準」に照らして、該当することが明らかまたは可能性が高い場所を、概要調査地区の候補から除外します。
- 十分な文献がなく、評価できなかった場所は、概要調査で確認します。

<選定イメージ>



誰が調査を行っているのか

- NUMO（東京都）の技術部・地域交流部の職員二十数名が、調査を担当しています。



地質図をPC画面で見ているところ



地質図を机上に広げて検討しているところ

- * 各分野に対応して、地質や土木などの専門技術者が担当しています
- * これに加えて、品質管理、説明資料作成などの作業も含めて、二十数名が、文献調査に携わっています

文献調査の実施見込み (2)



「日本鉱産誌V - a 石炭」の「第V-1 図九州の炭田および含炭地分布図」の玄海町付近

- さらに、日本鉱産誌という文献では玄海町のうち南部の一部のみが炭田分布域とされています。
- 玄海町には「鉱物の存在が確認されていない範囲が確認できうる」と考えています。
- したがって、文献調査の実施見込みがあると判断しました。

文献調査の実施地域

- 玄海町全域を文献調査対象地区とします。また、沿岸海底下についても文献調査対象地区に含めることとします。
- 今後は、文献調査の進捗状況などを対話を行う場などで玄海町の皆さまにお知らせしてまいります。
- 本日は、文献調査の進捗状況について、ご報告いたします。

2025/7/29

文献調査の進捗状況 (玄海町)

2025年7月



原子力発電環境整備機構 (NUMO)

ニューモ

文献・データの収集中です

- 並行して、収集した文献・データから評価に必要な情報を抽出しています。



主な文献・データの収集は完了しています

まず、主な文献・データ

(国の調査機関、学会などによりまとめられた図面など)

- 文献・データを収集します。
- ひとつひとつ詳しく調べます。
- 必要な情報を抽出します。
- 抽出した情報を分類・整理します。
(同じ断層に関する情報に分類など)

不足している必要な情報を把握します。

文献・データの範囲
を広げます

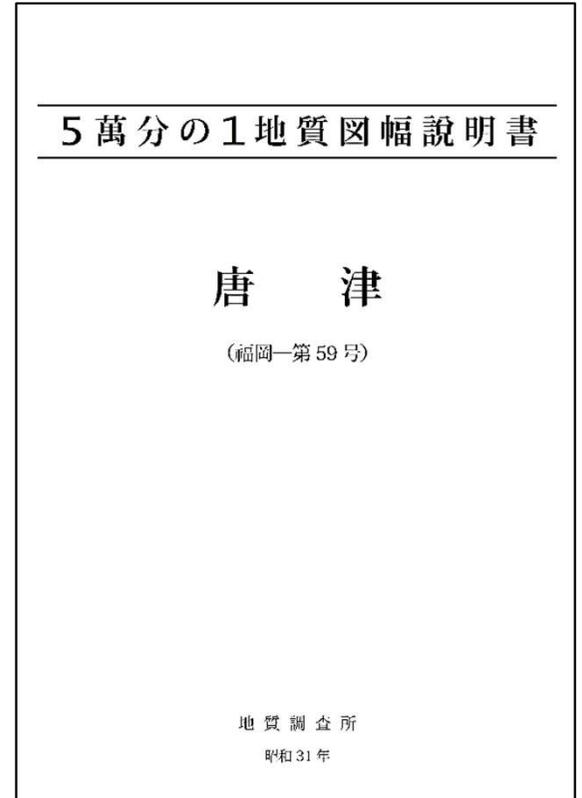
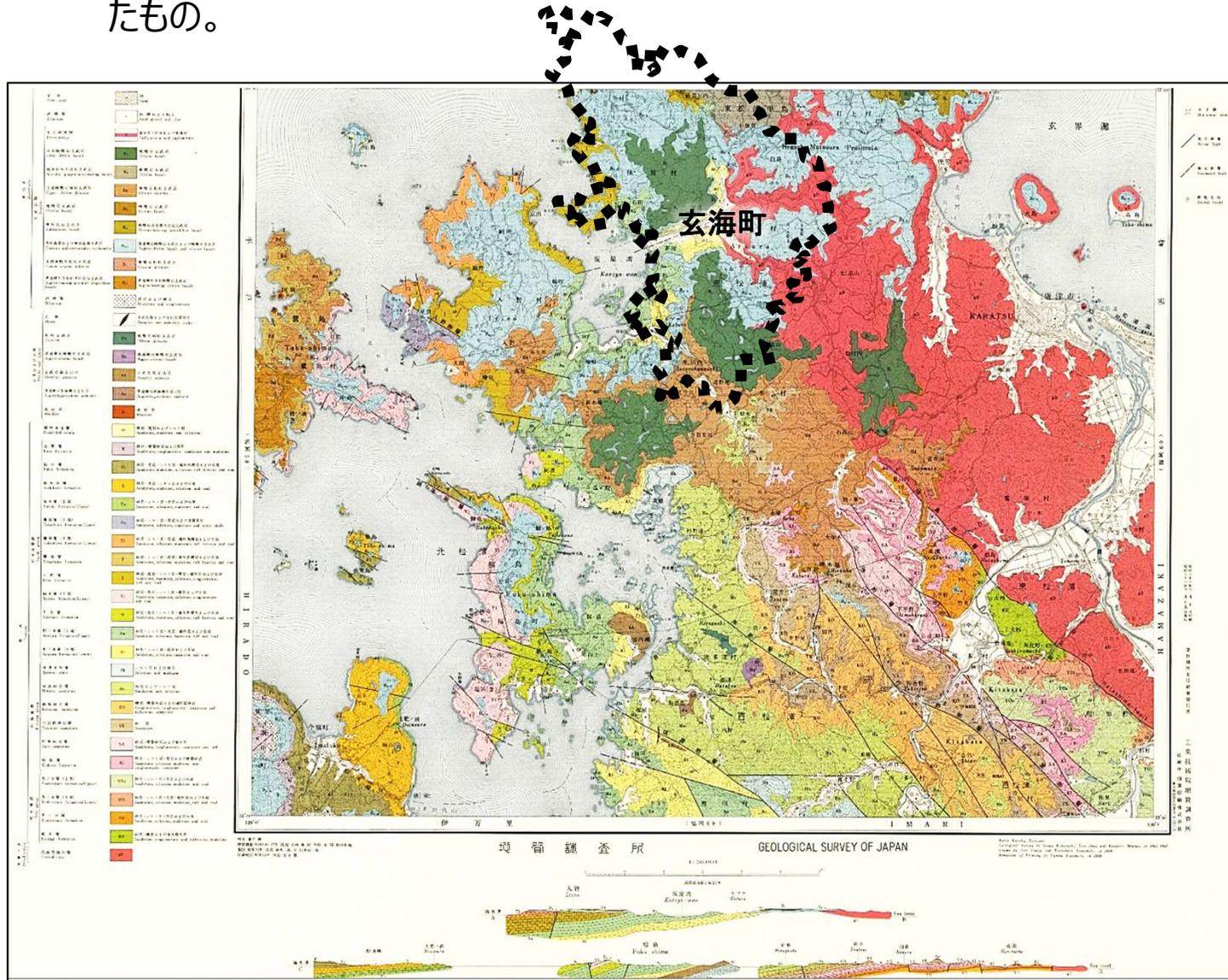
(学术论文・地域の関連
図書など)

収集した主な文献・データ

項目	白色：科学的特性マップの作成に用いられたもの 黄色：地域固有のものなど
項目共通	<ul style="list-style-type: none"> • 5万分の1地質図幅および同説明書「呼子」、「唐津」など（小林ほか、1955；1956） • 日本地方地質誌8 九州・沖縄地方（日本地質学会編、2010） • 日本の地形7 九州・南西諸島（町田ほか編、2001） ・沿岸の海の基本図「壱岐南部」（海上保安庁、1982） • 九州電力玄海原子力発電所の新規制基準審査会合資料発電所の発電用原子炉設置変更許可申請書及び関連審査会合資料（原子力規制委員会ウェブサイト）
1.地震・活断層	<ul style="list-style-type: none"> • 活断層データベース（産業技術総合研究所地質調査総合センターウェブサイト） • 九州の活構造（九州活構造研究会編、1989）
2.噴火	<ul style="list-style-type: none"> • 日本の火山（第3版）（産業技術総合研究所地質調査総合センター、2013） • 日本の第四紀火山カタログ（第四紀火山カタログ委員会、1999） • 全国地熱ポテンシャルマップ（産業技術総合研究所地質調査総合センター、2009） • 日本の火山データベース（産業技術総合研究所地質調査総合センターウェブサイト）
3.隆起・侵食	<ul style="list-style-type: none"> • 日本列島と地質環境の長期安定性「付図5 最近10万年間の隆起速度の分布」（日本地質学会地質環境の長期安定性研究委員会編、2011） • 日本の海成段丘アトラス（小池・町田編、2001）
4.第四紀の未固結堆積物	<ul style="list-style-type: none"> • 日本列島における地下水賦存量の試算に用いた堆積物の地層境界面と層厚の三次元モデル（第一版）（越谷・丸井、2012） • 5万分の1土地分類基本調査「呼子・唐津」（佐賀県、1974） • 九州地方土木地質図及び同解説書（九州地方土木地質図編纂委員会編、1985） • 九州地盤情報共有データベース（第3版）（九州地盤情報システム協議会、2019）
5.鉱物資源	<ul style="list-style-type: none"> • 日本油田・ガス田分布図（第2版）（地質調査所、1976） ・日本炭田図（第2版）（地質調査所、1973） • 国内の鉱床・鉱徴地に関する位置データ集（第2版）（内藤、2017）
6.地熱資源	<ul style="list-style-type: none"> • 鉱物資源図「九州」（須藤ほか、2003） ・特殊地質図「九州地熱資源図」（阪口ほか、2000） • 鉱業原簿及び鉱区図（九州経済産業局）

主な文献・データの例：5万分の1地質図幅「唐津」

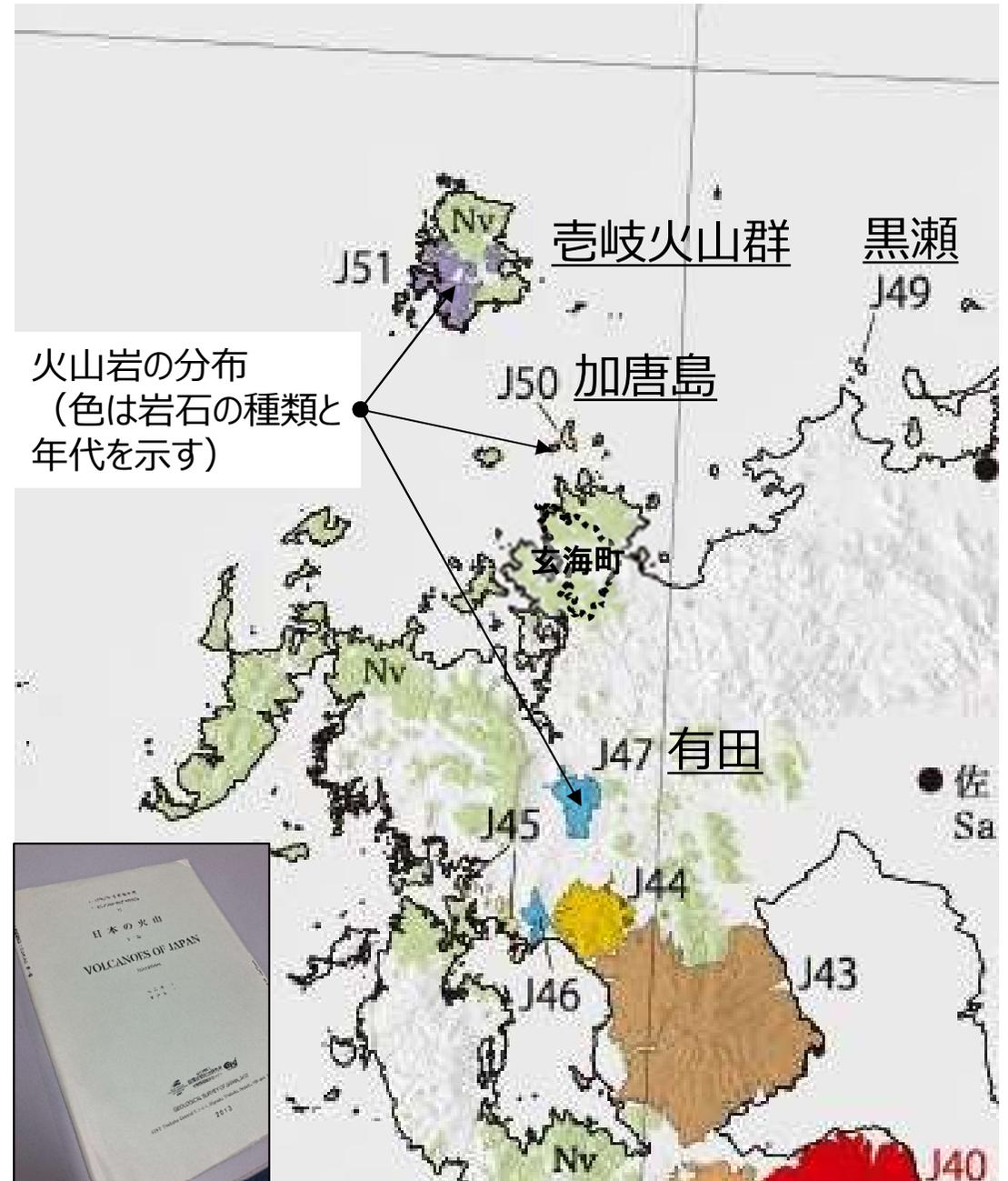
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター（旧地質調査所）が発行している地質図幅やその説明書を確認。
- 地質図は、その土地を構成する地層や岩石ができた時代や分布している場所を色別に地図上で示したものの。



小林ほか（1956）を抜粋

主な文献・データの例：日本の火山（第3版）

- 溶岩などの火山岩の分布や過去の活動、火山の形式などが示されている。
- 玄海町の周辺には、有田や加唐島、壱岐火山群などの表記が見られる。



産業技術総合研究所 地質調査総合センター ウェブサイト
日本の火山 > 第四紀火山 > 地域選択 > 地域 山陰西部-九州西部中部
https://gbank.gsj.jp/volcano/Quat_Vol/Japan_retto/map11.html (2025年7月) を抜粋

さらに範囲を広げて収集しています

- 地名・地域名などのキーワードに基づいて、関連する書籍や論文を収集。
キーワードの一例：玄海、東松浦、佐賀県、北西九州、北部九州、唐津、壱岐、佐世保、伊万里、牟形、仮屋、有浦、新有浦、石田村、黒形、大串、浜野浦鉦、十丈など。

● 地域の図書館等でも収集しています

佐賀県立図書館でコピー

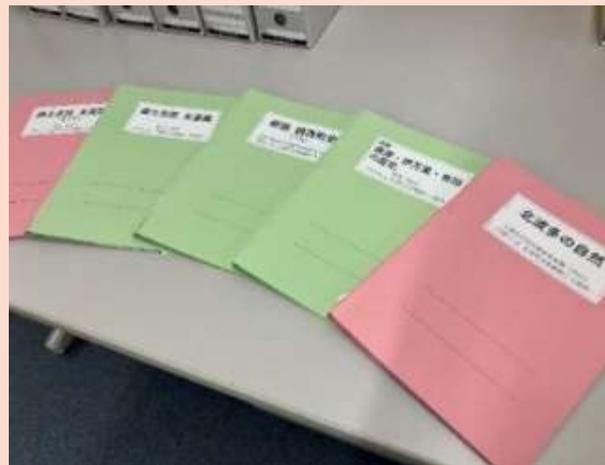
- 佐賀県の地質と地下資源



佐賀県知事室開発課編（1954）を抜粋

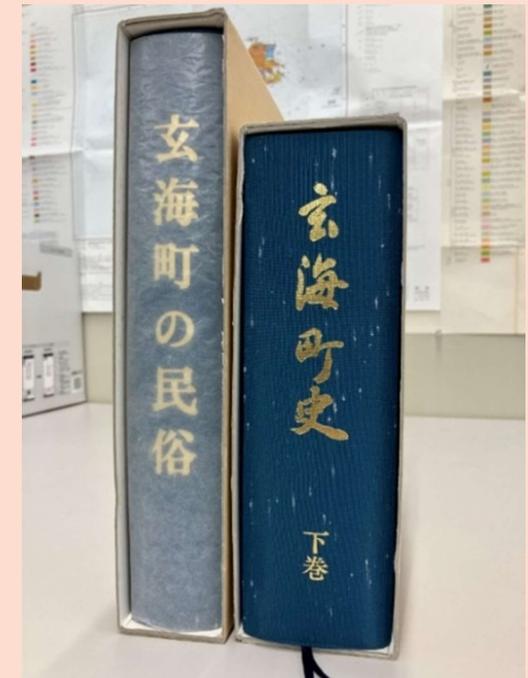
玄海町図書館でコピー

- 郷土史誌 末蘆國および第2版
- 写真アルバム 唐津・伊万里・有田の昭和
- 新版鎮西町史下巻
- 図説 唐津・伊万里・有田の歴史
- 北波多の自然



玄海町から購入

- 玄海町史 下巻
- 玄海町の民俗



地域の図書館等で収集した文献・データの例：玄海町史

● 玄海町に昔、存在していた炭鉱が紹介されている。

第五章 その他の産業

この炭屋炭鉱にちなんだ「炭屋ゆう」の話がある。

唐津藩末期ころ、菅津村の通称千樽山炭坑（大鶴炭鉱の前身）を

きていた吉止炭業玄海炭鉱も同年二月十九日閉山となった。

で全従業員に解雇予告し廃業。また大園アマゴウ浦に進出して

無煙炭鉱が本坑を開坑したが、三十三年一月十五日、経営不振

昭和二十三年（一九四八）には閉坑となり、三十二年には唐津

○大正時代（一九二〇）にも採掘が継続していたかは不明だが、

継続できなかった。

（現唐津市）出身、当時の鶴牧、田野村などの鉱区でも採炭し

ていたが、資力乏しく採炭費用、運営費がかさみ採算あわず、

の史料によると次のようにある。

○明治六年（一八七三）には「炭屋村一坑、休業のところ廃業届け」と記載され、「炭鉱所在田ノ浦、坑区一

カ所、面積九千六百坪、借区人保利茂助、採掘許可明治九年五

月六日、廃業年月、明治十五年二月七日」と記載されていて、

当時官許の石炭鉱として認められていたようだ。保利は唐津町

第三節 炭工業



千樽山炭坑（大鶴炭鉱の前身）納屋より
炭屋湾・竹の子島を望む

二 炭屋村炭鉱

炭屋では古くから地域民が自家用として、ためき掘りて採炭していたらしい。『肥前石炭鉱業史料集』その他

第六節 交通・運輸	624	第一節 道路	624
第四項 商工会	623	第一節 橋	625
第三項 金融	620	第二節 陸上交通	626
第二項 酒造	618	第三節 海上交通	628
第一項 商業	616	第七章 電信・電話・電気	630
第三節 炭工業	616	第一節 郵便	630
第二項 商業	616	一 玄海郵便局	631
第一項 酒造	616	二 値賀郵便局	632
第二項 金融	618	三 炭屋簡易郵便局	632
第三項 炭工業	615	第一節 電話	633
一 石田村炭鉱	610	第二節 電気	636
二 炭屋村炭鉱	611	第一項 水力発電から原子力発電まで	636
三 有浦炭鉱	612	第二項 広滝水力発電のころ	637
四 黒形炭鉱	613	第三項 唐津電灯のころ	641
五 大串炭鉱	614	第四項 有浦電気	644
六 浜野浦炭鉱	615	一 玄海原子力発電所	645
七 十丈炭鉱	615	二 原子力発電所誘致運動と反対運動	650
		その他	650

玄海町史

下巻

今後の予定

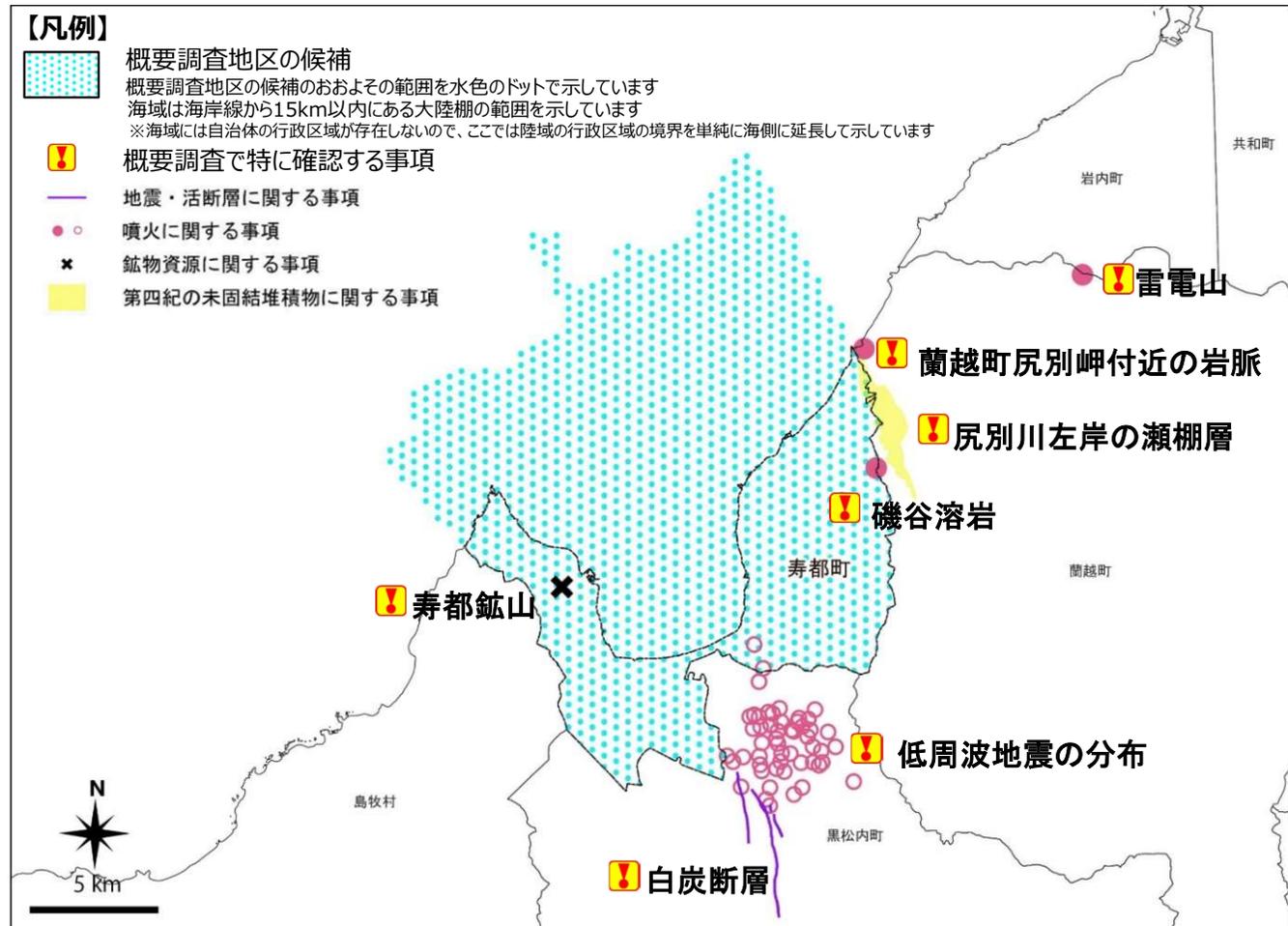
- 引き続き、文献・データの収集、情報の抽出・整理を進めます。
- それらに基づき、情報の読み解き、評価、報告書作成を進めます。





「読み解き」・「評価」の例：寿都町

- **読み解き**：文献から抽出した情報を地図上に整理したり、調査内容を文章でまとめる。
- **評価**：文献調査で避ける場所はなかったが、概要調査で確認しなければならない事項（図中の ）がいくつか残っている。例えば、火山の活動年代、地下300mより深いところでの断層の分布など。玄海町の調査でも同様に、避ける場所や現地調査で確認すべき事項（留意事項）を評価・整理する予定。



避ける場所

➤ なし

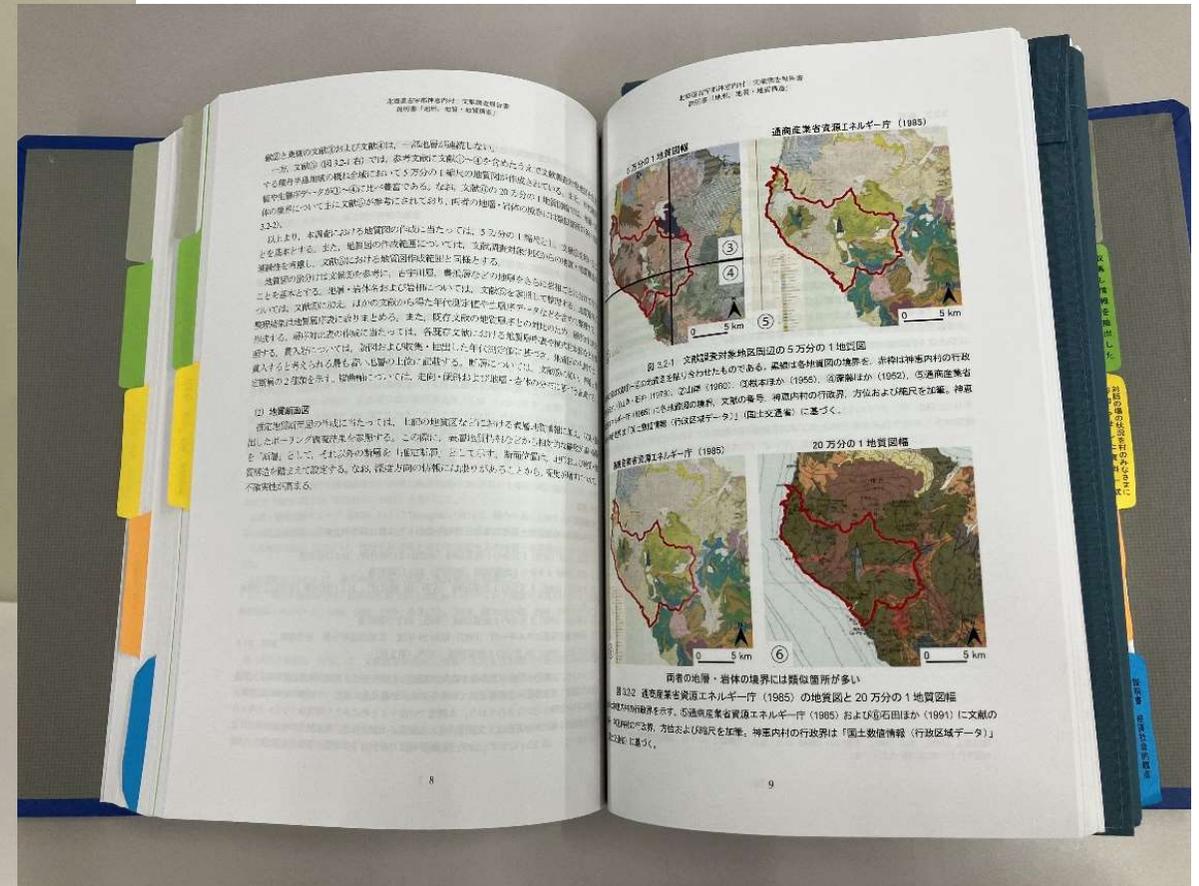
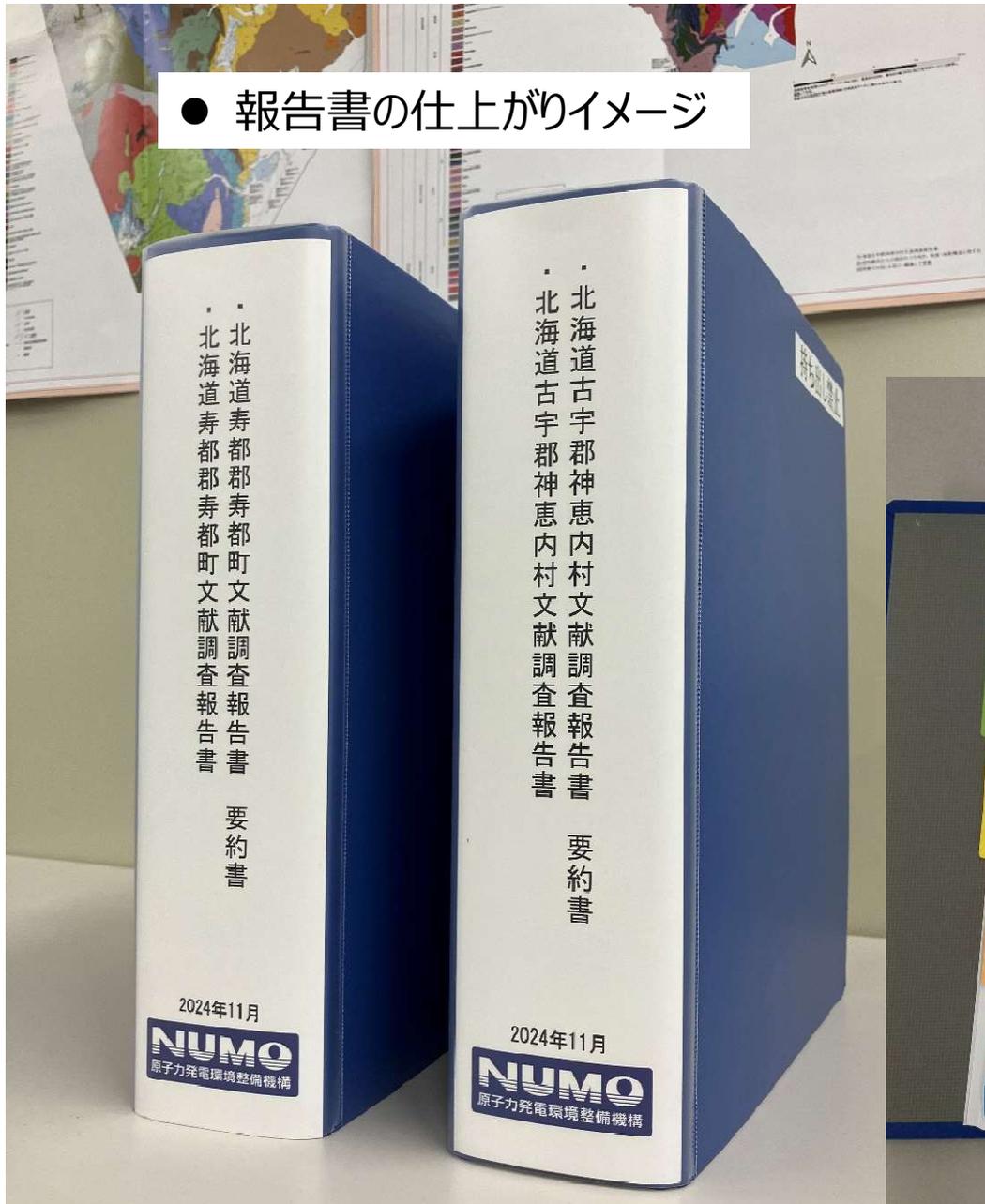
概要調査で特に確認する事項

- **寿都鉱山**
 - 230m以深の分布が不明
- **白炭断層**
 - 寿都町の地下での分布が不明
- **低周波地震の分布**
 - 新たな火山が生じる可能性
- **蘭越町尻別岬付近の岩脈**
 - 第四紀の火山の活動中心の可能性
- **磯谷溶岩**
 - 第四紀の火山の活動中心の可能性
 - 第四紀の火山活動の跡
- **雷電山**
 - 第四紀の火山の活動中心の可能性
- **尻別川左岸の瀨棚層**
 - 第四紀の未固結堆積物

「報告書作成」の例：寿都町・神恵内村

④ 報告書作成

● 報告書の仕上がりイメージ



ご清聴ありがとうございました。